

尼崎運河から武庫川河口を歩く

第 187 回 武庫川エコハイク

2022. 12. 10 エコグループ・武庫川

武庫川 全長 65km、流域面積 500km²・丹波篠山市、能勢町、三田市、神戸市北区、西宮市、宝塚市、伊丹市、尼崎市の 7 市 1 町を流域に持ち県内有数の人口・資産を抱える 2 級河川である。武庫川の名は下流の右岸が武庫郡であり、武庫郡は日本書紀にある「務古水門(むこみなと)」からとか、浪速から見て「向こう」にあるからとか諸説がある。本川の源流は丹波篠山市にある。丹波篠山市から三田盆地までは緩やかな傾斜であるが、道場を過ぎると武庫川渓谷の急流となる。武庫川下流の治水対策として武庫川渓谷に治水ダムが計画されたが、県は武庫川流域委員会を設置して 2 年半にわたり協議した結果、平成 22(2010)年 10 月、20 年間はダムによらず流域対策と堤防強化、河道掘削で治水対策を実施することとなった。

阪神尼崎センタープール前駅 阪神電気鉄道本線で昭和 27(1952)年、臨時駅として開業。平成 6(1994)年 1 月、尼崎市内連続立体交差事業により高架化する。「センタープール」とは、競艇場の競走池の事で、水泳用のプールの意味ではない。

尼崎競艇場の建設 昭和 25(1950)年 9 月 3 日のジェーン台風により尼崎市域は甚大な被害を受けた。その災害復旧費で市は多額の財政赤字が発生する中でした。当時の坂本勝市長は、蓬川(よもかわ)から武庫川にかけての阪神沿線北側に広がる大庄湿地地帯を掘削してモーターボート競走場の誘致に取り組み、また掘削土により湿地を埋立、学校・公園・住宅等を建設、さらにはごみ溜め・蠅蚊発生源となっていた湿地の解消が環境衛生の改善につながるという、いわば一石三鳥の計画の取り組みをする。競艇場の毎年度収益は長年にわたり市財政に寄与する事になる。

道意神社(どいじんじや) 主祭神は素戔鳴尊。承応 2(1653)年、当地の開拓事業に着手した大阪海老江(現在の大阪市福島区)の医師、中野道意翁が郷里の八坂神社を勧請して始まる。

元浜緑地 全国で初めて大気汚染対策の緑地として整備された公園です(昭和 63 年第 1 期工事着工)。大気汚染対策緑地とは「樹木により大気の浄化を図り、地域住民の健康保持に役立つ緑地」です。緑と花が多く、健康遊具や散策道が整備されている。

尼崎運河 尼崎運河は尼崎市の南部、臨海地域に位置する「尼崎運河域」と呼ばれるその範囲は、概ね国道 43 号から南側の中島川と武庫川に挟まれた、尼崎港を中心とする阪神工業地帯の核としても知られている 5 つの運河(北堀運河・中堀運河・南堀運河・東堀運河・西堀運河)の総称である。5 つの運河の全長は 6.9km、幅は 30~40m、水深は 2~6m で、3 つの河川、蓬川(よもかわ)・庄下川・旧左門殿川の臨海域を流れ総延長は 12.4km になる。国内の多くの運河が、工場等からの物流という当初の目的を終えた中、未だ現役でその役割をもつ運河である。尼崎 21 世紀の森構想地区にあることから、整備、活用において一体的に捉えられることが多い。

尼崎運河の歴史 尼崎市臨海部は明治後半から工業化が進んだ。昭和初期までは、新田の間を流れる水路を運河の代わりとして利用していたが、昭和 9(1934)年に運河の造成計画が決定。昭和 17(1942)年ごろに、ほぼ現在の形に整備された。その後工場の地下水汲み上げを原因とする地盤沈下が発生し、台風の度に大きな被害を受けるようになる。そこで、運河の物流機能を維持し、なおかつ高潮や洪水等の浸水被害から市域を守るための閘門(こうもん)式防潮堤が計画され、昭和 30(1955)年に尼崎閘門(尼ロック)が完成した。平成 19(2007)年には、運河を核とした魅力ある地域づくりへの取組を国土交通省が支援する「運河の魅力再発見プロジェクト」の第 1 次認定を受け、「21 世紀の尼崎運河再生プロジェクト」が策定された。

であい橋 北堀運河と中堀運河を結ぶ橋。運河と人が出会うことから名付けられた。橋の中央にそびえ立つモニュメントはかつての関西熱化学(株)のガスタンクをモチーフにしたもの。現在は尼崎運河のシンボルとして知られ、縁結びの赤い糸が結ばれたりしている。

水質浄化施設 運河に流れ込む栄養塩が多く含まれた排水により底部は底泥(ヘドロ)化します。その汚濁を改善するためにつくられた水質浄化施設です。二枚貝や海藻の浄化能力を利用して水質を浄化する機能をもつ。施設は、貧酸素化の改善、懸濁物質の除去、栄養塩の回収という 3 つの機能を備えている。また、手漕ぎボートなど運河水面を利用するための乗降場として利用できる親水機能を兼ね備えている。

尼崎閘門(こうもん) 別名・ニロック。尼崎市臨海部の運河および河川と尼崎港を隔てる閘門。同市の治水・高潮対策と、臨海部の船舶利用を両立させる目的で設置される。平成 6(1994)年に西:第 2 閘門、平成 14(2002)年に東:第 1 閘門が改築される。

閘門とは 水位の異なる水面で前後の 2 つの水門を交互に開閉することにより、潮位の高い海水が運河内に流れることを防ぎながら船が航行できるようにした水門(船のエレベーター)のこと。

尼崎閘門は、レオナルドダヴィンチが考案したと言われるパナマ運河方式(両開き式)を国内で初めて採用した。閘門の大きさは日本一。長さ 90m、幅 17m、前扉の高さT. P+5.7m。前扉の重さ 260t、通航可能な船の大きさ 500 総まで。

尼崎の森中央緑地(尼崎 21 世紀の森) 尼崎市臨海部にある県立の都市公園。平成 18(2006)年 5 月に一部開園(6.6ha)した「尼崎の森中央緑地」(約 29ha)。尼崎 21 世紀の森構想の中心拠点として、開園後も数十年の長期に渡り拡張整備が進められる計画である。当地には、かつて神戸製鋼所、関西熱化学、同和精鉱の工場群があったが、産業構造の変化や阪神・淡路大震災の被害等に伴い閉鎖を余儀なくされ、この地域の都市再生が緊急かつ重要な課題となる。そこで、これら工場跡地と周辺地域を兵庫県が進めてきた「尼崎 21 世紀の森構想」の先行地区に位置付け、県の都市公園事業および港湾環境整備事業として進められている。現在の施設エリアと植生ゾーンは、スポーツ・健康エリア「はじまりの森ゾーン」、県民の森エリア「落葉広葉樹林・草原ゾーン」、自然の森エリア「照葉樹林ゾーン」、海辺エリア「海浜ゾーン」などができる。

平左衛門町 尼崎市と西宮市の飛び地の交換市域。江戸時代、武庫川河口に丸島という島状の土地があり、東岸の西新田(尼崎)と西岸の鳴尾(西宮)を農地として開発して共同利用していた。土地は開発者の一人の名を取って平左座衛門新田と命名。一方、西宮仁川の武庫川西岸の**田近野(たじかの)**は、武庫川東西両岸に荘域を有し西昆陽の所屬地となっていた。飛び地で行政上の不便な諸問題もあり尼崎市と西宮市の間で市域の交換が行われる。昭和 44(1969)年 4 月 1 日、平左座衛門町は尼崎市、田近野町は西宮市となる。

武庫川下流浄化センター 尼崎市・西宮市・伊丹市・宝塚市の下水処理をおこなっている。

武庫川終点 阪神高速道湾岸線橋梁下右岸側と同橋梁少し上流の左岸を結んだ線が終点。

尼崎市立魚釣り公園 昭和 57(1982)年開設。栈橋式の市立魚釣り公園、海釣りが楽しめる。

ジェーン台風による尼崎市域の被害 昭和 25(1950)年 8 月 28 日に硫黄島付近に発生したジェーン台風は 9 月 3 日神戸市内に上陸、尼崎市を通過しました。市域は午前 11 時頃暴風雨圏内に入り、12 時前後には最大瞬間風速 44m を記録、午後には O.P(大阪湾最低潮位)3.6m の高潮による浸水被害が発生。阪神国道以南が浸水し、小田地区では東海道線にまで浸水線が及び、南部の初島地区では家屋の 2 階中ほどまで水につかるという甚大な被害を受ける。